

保育センターが請願書提出



星野市長（奥左）と懇談するメンバー

16日、市役所において群馬県保育問題連絡会（略称：群馬保育センター）が、「子ども・子育て新システムの導入に反対」を求めて星野市長と懇談するとともに、大島市議会議長に同趣旨の「請願」を提出しました。

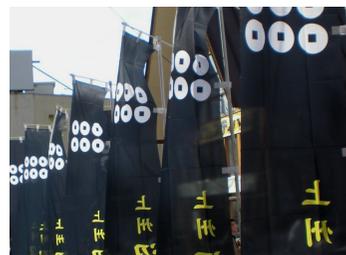
熊の子保育園が市長に陳情書提出

18日、熊の子保育園の職員と保護者が、保育料の引き下げや保育職員配置基準の改善など12項目の要求を星野市長に陳情し、市長・市幹部と懇談しました。これには、井之川博幸市議も参加しました。



部課長らと懇談する職員・保護者のみなさん

戦国ストリートin沼田を開催



えびす講で賑わう街に突然「武者行列」が！真田城下に「戦国ストリート」が出現しました。



太鼓軍団の路上演奏

古代 群馬の王は東海（愛知県）からやって来た（最終）

近畿地方では4世紀後半から5世紀前半にかけて最大級の古墳の造営地が大和から河内に移行する。場所の移動は大王の政権交代があった事を窺わせるものである。この時期の古墳の特徴は古墳が巨大化した事。巡りに堀を巡らした2重の盾形周濠、埴輪の樹立、長持形石棺の採用など共通した特徴がある。そこには墓を作る専門家集団の存在があったものと思われる。

この時期、群馬でも大きな変化があり、東と西で最大規模な前方後円墳が造られている。高崎市の倉賀野は利根川流域の重要な交通の要所であるが、そこに^{せんげんやま}浅間山古墳がある。全長172メートルで堀をめぐらし2重周濠となっている。東部では太田市の宝仙茶臼山古墳がある。これは全長165メートルであり、現在は新田庄遺跡となっている。東西に分かれて2つの古墳の被葬者が地域の小首長層を統合したものと思われる。

そしてこれらの首長層を統合した太田天神山古墳の登場である。墳丘の長さは210メートルあり、葺き石で覆われ、被葬者は大型の長持形石棺に葬られていた。この石棺は境内の有力古墳と同じものであり、ヤマト王権から専門の石棺工人が派遣されたものと思われる。この首長は上野、下野両地域に君臨した「毛の王国」の王だと考えられている。

ヤマト政権との結びつきを証明する発見

群馬県の首長層とヤマト王権が緊密に結びついている証拠となる発見があった。2009年に再調査された近畿の桜井茶臼山古墳では、鏡は破片になっていたが81面以上あった事が確認された。

この破片が高崎市芝崎町にある蟹沢古墳から発見された銅鏡の銘文の文字と一致した。そこに「是」と言う字が読み取れる。この銅鏡は正始元年（240年）の年号の銅鏡である。この正始元年という年は問題となっている邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送り、貰って来た銅鏡100枚（魏志倭人伝）の文と一致する年号である。そこから桜井茶臼山古墳が卑弥呼の古墳ではないかと論争となっている。



蟹沢古墳出土品



この字が蟹沢古墳の「正始元年」の銅鏡の字と一致した

私の推理では邪馬台国の女王卑弥呼が東海地方の「くなく」に敗れ、その後国が乱れて再び女王を擁立したが実質的支配は「くなく」が行っていたのではないかと思います。従って群馬の支配者とヤマトの支配者が共通した東海地方の豪族なので、結び付きが強いのはその為ではないだろうか。それはともかくとしても1群馬の首長の古墳からこの破片が発見された事はヤマト政権との結び付きの深さを感じさせる発見である。

王の支配を見てきたが、歴史を動かしてきたのは多くの人々であり、生産力の発展が重要な役割を果たしている事は言うまでもない。

2011年11月27日 No.586

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料